

経営比較分析表（令和3年度決算）

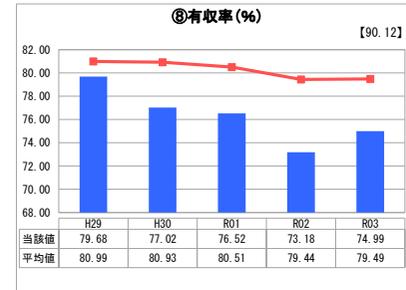
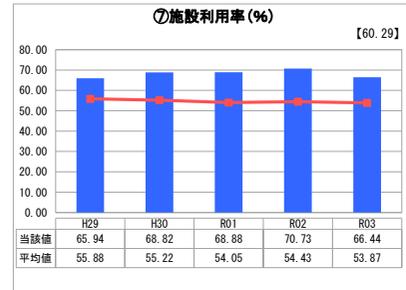
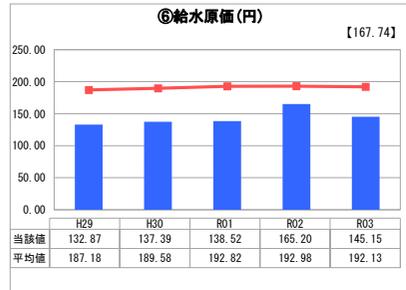
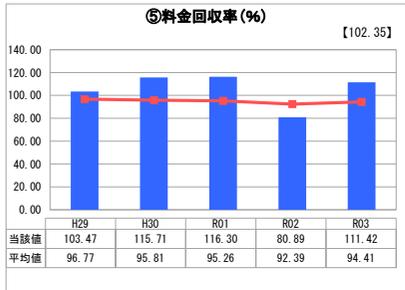
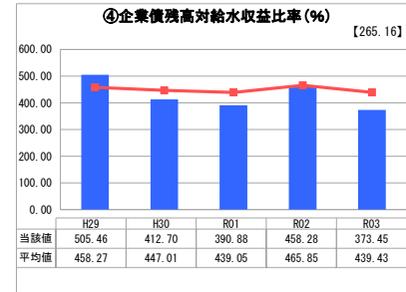
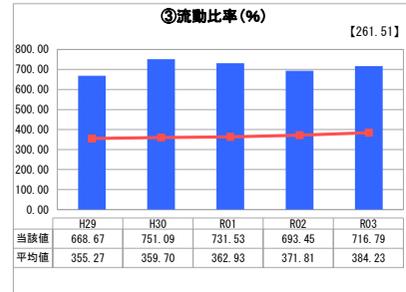
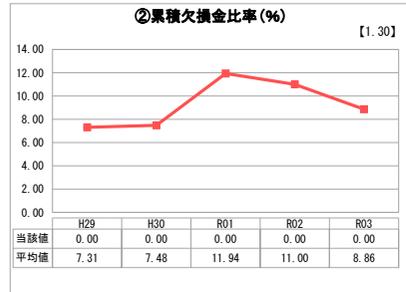
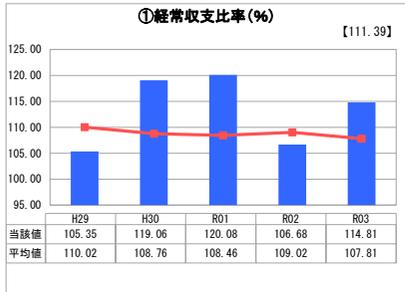
熊本県 芦北町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	69.29	68.78	3,300	

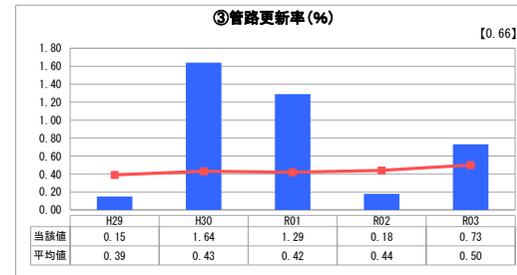
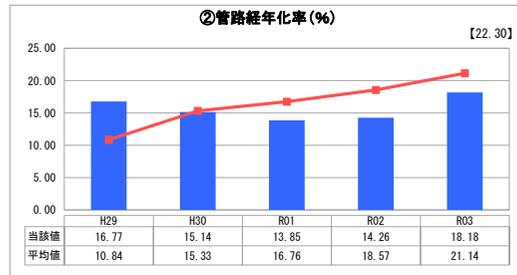
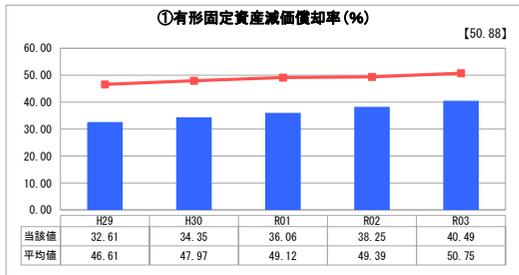
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,141	234.01	68.98
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
10,991	102.40	107.33

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本決算の経営面の数値は、令和2年7月豪雨災害からの復旧復興を経て、災害以前の状況へ改善し、有収率を除けば、良好な決算状況であると考えます。

企業債の借入については抑制しており、企業債残高は減少傾向にあります。今後は必要な更新事業については、適切な投資規模を考慮しながら実施していきます。

また、有収率については、前年度から上昇はしたものの、全国平均値をも大幅に下回っていることから、今後の最重要事業として老朽管の更新事業を行い、有収率の改善を図っていく必要があります。

なお、本分析表では把握できませんが、本水道事業の固定資産に対し、現金の保有が少ないものと考えており、今後は決算の数値に感わされないよう、慎重な経営を行っていくことも必要です。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、管路経年化率からもわかるとおり、管路の老朽化が深刻であり、このことが有収率の低下に繋がっています。計画に基づき更新を行い、管路経年化率の向上を図っていきます。

全体総括

全体的に決算による経営状況はおおむね良好であります。有収率の向上など、将来にわたり強靱な水道を築いていくための課題は多岐にわたります。

今後は、平成30年度に策定した経営戦略の数値を毎年精査しながら、課題解決に努めてまいります。

また、強靱な水道となるよう、近隣市町や県とも情報交換を図りながら互いに連携し、様々な事業に取り組んで参りたいと思います。